

ラジオで被害者情報提供・保護・救出を訴え

自由北朝鮮放送—日本支局を開設

救う会では、平成18年2月の全国幹事会で、「北朝鮮内部への働きかけと情報活動再強化」を運動目標の一つに初めて掲げ、平成18年4月から、「自由北朝鮮放送」支援日本委員会を立ち上げ支援と放送を行ってきました。6月28日現在、皆様からの支援金235万円と救う会から50万円を「自由北朝鮮放送」に支援し、家族会・拉致議連もそれぞれ支援してきました。

同放送では、平成17年12月に短波放送を開始し、毎日1時間放送する中で、日本人拉致問題については毎週10分～15分放送してきました。平成19年5月からは、短波放送を2時間に拡大し、今後は家族の訴えなど日本人拉致問題について毎日30分の放送を準備中です。脱北してきた人々からは、「日本の大学教授（西岡力常任副会長）の話聞いた」という報告も届いており、私たちのアピールが北朝鮮に届いていることは確実です。テレビや新聞が当局の統制下にある北朝鮮ですが、ラジオだけは完全に統制できません。

現在、日本、米国、韓国で対北朝鮮短波ラジオ放送を行っている放送局が10局ありますが、その内拉致問題を集中的に扱っているのは自由北朝鮮放送と特定失踪者問題調査会の「しおかぜ」の2つだけで、平成19年7月から日本政府（拉致問題対策本部）の短波ラジオ放送「ふるさとの風」が開始され3つになります。北朝鮮は予算の関係で終日、すべての放送に妨害電波を出せず、対北朝鮮放送が増えれば増えるほど苦しくなります。

また、「自由北朝鮮放送」は、平成19年10月から中波放送を予定しており、中波ラジオしか持たない人も聞けるようになります。脱北者が北朝鮮なまりで話す「自由北朝鮮放送」は、内容が信頼されています。もちろん拉致被害者も理解できます。脱北者は、脱北方法や韓国での受入れ状況、外部社会の情報等、北朝鮮住民に関心が高い情報をよく知っており、危険を冒してでも聞きたくなる情報を放送しています。それが、口コミでも短時間で広く伝わります。帰国した拉致被害者は家族が救出運動を行っていることを知っていました。私たちの放送も拉致被害者に届いている筈です。

私たちは、北朝鮮幹部に対して、「拉致問題に関する日本人の不退転の決意と被害者に危害を加えれば犯人は絶対に許さない」、「拉致被害者の情報を提供し、保護・救出すれば報償する」と訴えています。FNKは脱北者間に広いネットワークを持っています。韓国に入った脱北者から、何らかの拉致関連情報がもたらされることも期待しています。救う会では、この放送を今後も支援しつつ、全力をあげて救出に取り組んで参ります。つきましては救う会の、「北朝鮮内部への働きかけと情報活動強化」事業にご理解を賜り、下記によりご支援を賜りますようお願いいたします。

◆「自由北朝鮮放送」支援日本委員会について

目的 ①自由北朝鮮放送を通じて、金正日政権幹部に、拉致被害者救出に対する日本人の不退転の決意と、被害者の保護・救出や情報提供に協力すれば報償を与えることを伝える。

②自由北朝鮮放送を通じて、北朝鮮住民に国際社会の動き、民主政治の思想、金正日政権の政治宣伝の嘘を伝え、北朝鮮の自由化に備える。

役員 顧問＝横田滋・家族会代表、佐藤勝巳・救う会会長、平沼起夫・拉致議連会長
委員長＝西岡力・救う会常任副会長、理事＝増元照明・家族会事務局長、島田洋一・救う会副会長、平田隆太郎・救う会事務局長、事務局長＝山岸丈良・救う会事務局長次長

事務局 〒112-0013東京都文京区音羽1-17-11-905救う会内

電話03-3946-5780 FAX03-3946-5784

募金先 郵便振替口座00100-4-14701 救う会（通信欄に「ラジオ」と記入してください）

「自由北朝鮮放送」日本支局を開設－金聖玟代表らが連続集会で訴え

自由北朝鮮放送（F N K＝韓国名は自由北韓放送、金聖玟代表）が、平成19年6月28日、東京都文京区に日本支局を開設した。開設に合わせソウルより金聖玟（キム・ソンミン）代表（写真中央）、金善美（キム・ソンミ）アナウンサー（同左）、金大虎（キム・デホ）記者（同右）が来日し、記者会見を行った。3人はいずれも脱北者で韓国在住。F N Kは、北朝鮮から直接情報を取る独自の線を確認しており、会見の場で、北朝鮮内部の映像情報を報道関係者に無償提供した。以下は、当日の連続集会における金聖玟氏の訴え。



自由北朝鮮放送（F N K）の目的は、ラジオを通じて北朝鮮を民主化し、人民を解放することですが、この目的は拉致被害者の解放にもつながります。また、拉致被害者に希望のメッセージを伝えたいと思ってこれまでも放送してきました。さらに、脱北者が運営するF N Kは、脱北者を支えるとともに、北朝鮮人民に希望を与えてきました。

対北朝鮮放送の聴取割合の測定はできませんが、我々がこの3年間に脱北者200人を対象に調べた結果、外の世界のラジオを聞いていた人が60%でした。これは脱北者における割合で、北朝鮮住民の60%が聞いているということではありません。最近嬉しいニュースがありました。日本に漂着した4人の脱北者が、拉致問題について知っていたことです。私が北朝鮮で政治将校をしていた時は拉致問題について一度も聞いたことがありませんでした。F N Kには、月に1度、30人くらいの新たな脱北者が研修のために来ます。そしてF N Kを聞いている人が増えていることが分かりました。F N Kで、日本の大学教授（西岡力常任副会長）の放送を聴いていた人もいました（拍手）。たった一人でもいい。外からの情報で正義と真実が北朝鮮に入ればよいと思って報道しています。

拉致問題を放送することのむずかしさがあります。拉致問題が全くわからない住民にまず説明が必要です。偉大なる將軍様はアメリカにもどこの国にも負けたことがない。その將軍様が拉致を認め、5人を帰したと放送して信じるだろうか、という思いがありました。めぐみさんのお母さんや弟さんがアメリカの大統領に会ったことを信じるでしょうか。拉致被害者の家族が日本の総理にいつでも会うことができ、食事もいっしょにできると信じるでしょうか。しかし、真心をこめて放送を続けていけば信じるようになると思います。日本支局が開設され、今日拉致家族や皆さんと対話をしたことも放送したいと思います。日本語のホームページも作る予定です。

韓国政府が対北朝鮮放送をやらなくなったこともあり、内部情報が我々のところに来るようになりました。昨年10月に北朝鮮における公開処刑の映像を日本のテレビが放映しましたが、あれは我々が提供したものです。軍や党の内部情報や資料もたくさん入ってきます。我々が独自で収集したものもありますが、北朝鮮から放送に使ってほしいと言ってきます。買ってこれということです。北朝鮮ではお金さえあればなんでもできます。今、内部情報を集める絶好の機会です。北朝鮮では、「朝鮮総連は、日帝の中にあって共和国を守るために骨を削る努力をしている海外同胞」という認識ですが、南に来て、総連が金父子の金蔓だったということが分かりました（笑）。総連の本部が差し押さえられたこと、それが北朝鮮に資金を送った結果であることも放送しようと思っています。これが伝わると、北朝鮮住民にはたいへんなショックだと思います。